



2020年11月9日

各 位

上場会社名 太陽誘電株式会社
 コード番号 6976 東証一部
 代表者名 代表取締役社長 登坂 正一
 問合せ先 広報部 部長 木本里映子
 電 話 (03)6757-8315
 U R L <http://www.ty-top.com/>

第2四半期連結累計期間の業績予想と実績との差異 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

2020年8月7日に公表した2021年3月期第2四半期連結累計期間(2020年4月1日～2020年9月30日)の連結業績予想と実績に差異が生じたので、お知らせいたします。また、2021年3月期(2020年4月1日～2021年3月31日)通期の連結業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 2021年3月期 第2四半期連結累計期間(2020年4月1日～2020年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回予想 (A)	130,000	15,000	14,000	8,500	67円73銭
実績 (B)	140,222	19,126	18,183	11,442	91円16銭
増減額 (B-A)	10,222	4,126	4,183	2,942	
増減率	7.9%	27.5%	29.9%	34.6%	
(ご参考) 2020年3月期 第2四半期(累計)実績	141,908	20,298	19,176	15,332	121円27銭

2. 2021年3月期 連結通期(2020年4月1日～2021年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	265,000	27,000	26,000	17,000	135円46銭
今回予想 (B)	284,000	34,000	33,000	22,000	175円27銭
増減額 (B-A)	19,000	7,000	7,000	5,000	
増減率	7.2%	25.9%	26.9%	29.4%	
(ご参考) 2020年3月期 通期実績	282,329	37,176	35,165	18,022	143円04銭

3. 差異と修正の理由

当第2四半期連結累計期間は、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大の影響により経済活動が抑制され、第1四半期連結累計期間において世界景気は極めて厳しい状況でしたが、徐々に持ち直しの動きがみられました。このような中、電子部品の需要は、電子機器を活用した在宅勤務や家庭学習の増加、スマートフォンの生産に向けた部品取り込み、自動車の生産回復などにより、想定を上回る高水準で推移しました。その結果、予想と実績に差異が発生いたしました。

また、通期業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の実績及び今後の需要予測等に基づき、上方修正いたします。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、第1四半期連結累計期間にフィリピン、マレーシアの生産子会社における稼働制限が生じたものの、当第2四半期連結会計期間は通常稼働に回復し、第3四半期連結会計期間以降も通常どおりの稼働状況が継続する前提としています。また、第3四半期連結会計期間以降の期中平均為替レート的前提は1米ドル 105 円です。

新型コロナウイルス感染症の影響による不透明さは依然として続いておりますが、中期的には電子部品の需要が増えていくというトレンドに大きな変化はないと想定しています。当社が注力すべき市場と位置付けている自動車、基地局通信装置・データセンタなどの情報インフラにおいて電子化・電装化や高性能化が進展し、大型・高信頼の電子部品の需要が拡大していくと見込んでいます。また、5G スマートフォンなどを中心とした通信機器の高機能・高性能化が続き、高い技術力を必要とする最先端商品が増加すると考えています。それらの需要に備え、また、将来の成長に不可欠な投資を継続していきます。一方、今後のリスク対策として、より強固な分散生産の体制構築や AI などを活用した生産効率の改善にも努めていきます。

<業績予想に関する注意事項>

この資料に記載されている業績予想数値は、現時点で得られた情報に基づいて算定していますが、多分に不確定な要素を含んでおります。従って、実際の業績は、さまざまな要因の変化等により、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合があることをご承知おきください。

以上